

# 新しい情報技術(IT)と情報サービスの提供

New Solutions of Information Technologies and Services



川田テクノシステム㈱代表取締役専務 船木 健治

KAWADA TECHNOSYSTEM CO.,LTD. Senior Managing Director Kenji FUNAKI

## 1. デジタル革命時代における情報化戦略

インターネットの急速な拡大と情報技術(IT)の広範な浸透により社会経済構造を抜本的に転換していく「デジタル革命」が着実に進展しつつある。このような時代に企業が生き抜くためには、顧客との接点を広げ、顧客のニーズに合ったサービスを提供するための効率的な仕組みをいかにつくるかが極めて重要な条件になるものと考えられる。そのため企業における情報化戦略は「個人業務の省力化から経営の情報化」へシフトしており、今後構築される情報システムも「業務処理型から業務プロセスの変革を意図した戦略的な新時代アプリケーション」へと移行しつつある。

川田テクノシステム㈱(KTS)では土木設計をベースとしたシステム開発・販売および受託設計を主たる業務として行ってきたが、2000年を期に土木設計技術に加えてネットワークやデータベース技術などの先進的な情報技術を取り入れて「KTSトータル・ソリューション」を提唱し、従来まで技術系や管理系システムとしてスタンド・アロン型で構築していたシステムを統合する方向に進化させている。これは例えば、技術系システムからの設計結果が、管理系である電子入札支援システムでの実績情報として連動していく仕組みなどである。この統合化の狙いは「技術系、管理系の情報を統合することにより、より広範囲な密度の濃い情報が活用・分析できることになり、強いのは経営戦略の策定に役立つ情報管理システムの構築」を実現するものである。

## 2. 拡大するアプリケーションへの社会的ニーズ

土木設計システムの分野では、今年度に予定されている『道路橋示方書』の改訂では「性能照査型規定」の考え方が導入されようとしており、それによって新しい技術の提案が活発に行われると予想される。これをコンピュータシステムの側面から見ると、新しい技術に柔軟に対応できるシステムが望まれることになる。今までの設計システムは、一様に定められた規定と手順に従って規定を満足する結果を算出するシステムで良かったが、これからは設計者が意図する手順で結果を算出するシステムでなくてはならない。さらに採用した規定や手順を再利用できるようにデータベースとして蓄積しておくことも重要である。また、設計結果が要求事項を満足しているかを診断するシステムも、設計品質の確保には必要になってくる。このような多様なニーズに対応した柔軟なシステムを目指して、既存ア

プリケーションのオブジェクト化(部品化)とデータの共有化を行い、設計者が自由にオブジェクトを組み合わせる計画、解析、設計、照査が行える「設計支援システム」の構築を行う予定である。

一方、業務管理系システムでは、工程管理、原価管理や財務管理といった事務処理系を対象としていたが、建設CALS/ECの一環である電子入札、電子納品が今年度から本格的に開始され、事務系に加えて技術系の情報も包括的に管理できるニーズに応えて、文書図面の管理システム「情報図書館」や電子納品支援システム「電納ヘルパー」などの商品をいち早く販売した。また、建設CALS/ECでは文書のデータ形式をXML(EXTensible Markup Language)とし、図面のデータ形式をSTEP(STANDARD for the EXchange of Product Model Data)とする標準化もされている。XML対応は「情報図書館」、「電納ヘルパー」で実現しており、一方、STEP対応はKTSの標準CADである「V-nas」で実現している。特に「V-nas」は、建設業分野での標準CADとして認知していただけるように周辺技術の充実も図っている。さらに地形情報などが3次元化の方向にあり、「V-nas」の3次元CAD化に向けても進めていく予定である。

## 3. 新しい情報サービスの提供

「KTSトータル・ソリューション」のもとに連結された新しいアプリケーションをより有効に活用するためにインターネット技術を利用した、

コンポーネント・サービス・プロバイダー

(設計部品やプログラム部品のインターネットを利用した供給サービス)

管理業務系プロセスのアウトソーシング

(インターネットを利用した管理系業務受託サービス)

など新しい情報サービスの形態の開発を試行している。これらのサービスには情報技術だけではなく、ユーザーの現場業務を正しく理解できるより高い専門性を持つ技術集団が必要である。新しい情報サービスのニーズ拡大は、決して一過性の現象ではなく、高度情報化社会、ネットワーク社会の発展に伴って、アプリケーションに対するニーズは限りなく増大していくはずである。KTSではプラットフォーム(ハード・ソフトウェア)の開発・販売だけではなく、新しい情報サービスの形態も開発し、情報サービス業の期待される姿の実現に向けて、真剣に取り組み努力していく考えである。